

12-3right

二十九日丑 晴 午下暴雨一過夕前晴
久松より鯛二尾、樽代二方、賀返し来る、□□□□趣也、国井より夫妻兩人へ三百疋、秋山より同
同断同□より肴料二方、牧田貞より同断、賀贈せらる、山中仁手拭地半紙に同断
山中仁、八蔵両夫妻媒酌にて、目出度婚儀取結び、右に付秋山斃(◎)、牧田貞常司隠
居久、八蔵、仁兵衛四夫婦横地六、病に付名代隠居十、蓮沼勘等賀□に連り常奴夫妻平山
婢□、千蔵
妻等□手許手伝ひとして来る、右一同其前(◎)供方割□人座す□□□等也賀様遣す秋山、
牧田は常司方へ泊せ候(◎)
五月

12-3left

朔日寅 薄晴
秋山、牧田両士常司方より帰宅、掛け時の謝に立よる、朝餐に添へ一杯を勧む、八蔵鯛
三尾時の賀として贈り来る、大塚喜一なる者義雄方へ来る、一面して退座酒
飯を勧む、東国山岸(◎)いよ媪(おう*)¹自然芋持来、酒飯を設(ま*²)へ

二日卯 薄陰夜雨

婚儀三ツ目使の者鱈ぶし三袋入義雄、柴(◎)山へ婚姻御届出序(ついで)を以遣す、一時夕
取落せしとて秋山より
八蔵夫妻請(◎)取人並奴婢(*)³四人へ何れも百疋□、山中仁を以届来る、牧田よりも猶前件の
秩序(◎)を以
同様の品(三ツ目使(◎)贈り来る、賀銀遣す、平山方へ挙家招かれ、酒無夕餐等享(きょう*)³
せらる、(叔母□)山中仁
□酌す座中一同□へ送り来る、万(萬)蔵随(したが)ひ来(◎)ひ賀謡一曲を歌ふ、猶一杯を一同
へ勧む

*0:奴婢(ぬひ)奴隸)、奴は男、婢は女

*1:媪(おう、老女)

*2:設(ま)く、あらかじめ準備する

*3:享(きょう)、飲食を進献する

□印は解読未了の文字です。悲しいかな私の実力ではすぐ解読はできません。